



四中たより

進もう おおらかに
学ぼう うるわしく
励もう たくましく

第9号 R3.11.5(金) 発行責任者 四中学

TEL 31-0911

個性(いろ)をつないで描いた四中 color



10月30日(土)にコロナ禍の合間をぬい「四中フェスタ・文化の祭典」がテーマソング「ハルカ(YOASOBI)」、スローガンを「個性(いろ)～音色で描く四中 color～」とし開催されました。

開会行事では、執行部が作成した「それぞれの個性(いろ)ってなに？」を問いかける、各部や執行部の「すご技チャレンジ」を織り交ぜた動画でスタートしました。子どもたちのアイディアの素晴らしさに感動しました。

続いて、吹奏楽部1・2年生による「炎」「輪になって踊ろう」の演奏、7組の生徒に荘司先生、渡邊先生、教育支援員の池田先生が加わってのトーンチャイムによる「小さな世界」「世界に一つだけの花」の演奏、音楽部(ピアニスト:五十嵐美幸さん)による「足跡(Nコン課題曲)」「ハルカ」「切手のないおくりもの」の合唱が披露されました。どの発表にも、それぞれの一生懸命さや思いが込められ、澄み渡り心洗われる音色が体育館に響きました。

今年度の合唱コンクールは、特別審査員に阿部由利先生をお迎えし、全校生徒を体育館に入れて、他のクラス、学年の歌を互いに聞き合い、学び合えるようにして行いました。どのクラスの発表も、「今できる最高の合唱を発表しよう」「自分のクラスにしか表現できない合唱を創り上げよう」とする気持ちにあふれていました。また、学年が上がるにつれ、発声やハーモニーがより洗練されていくのがよくわかり、特に3年生の合唱にむかう姿、ハーモニーを生で聴いた1・2年生は「目指すべき目標」「越えていくべき目標」を実感できたと思います。「四中の合唱文化」「四中のよりよいものをみんなで創り上げる文化」がしっかりとつながった瞬間となりました。保護者の皆様には、録画映像での視聴に対しまして、ご理解をいただきましたことに改めて感謝をいたします。

閉会行事は、各クラスの実行委員が自分のクラスの「個性（いろ）」を紹介（おたより冒頭のクラス写真内の言葉）しながら、この1か月間の取り組みを振り返り、互いを讃え合うとともに、これまでの取り組みの様子がスライドで紹介されました。この四中フェスタ全体を通して、一人ひとりの個性（いろ）や頑張りを大切にしようとする温かい気持ちを感じて、とてもうれしくなりました。

「充実」と「成果」の第4ステージ

文化フェスタの振替休日の翌日、今月2日（火）に第4ステージ（11月～12月）に向かう集会を行いました。ステージ集会の中で生徒の皆さんに以下の話をしました。〈校長の話 一部抜粋〉

第3ステージのテーマは「協力と団結」でした。「協力・団結」を実感するために、キーワードを三つ皆さんにお話をしました。「責任を果たすこと」、「多様性を理解すること」、「折り合いをつけること（合意形成を図ること）」の三つでした。特に、先日土曜日に行われた四中フェスタ文化の祭典へ向けた各クラスの合唱の取り組みは、この三つにチャレンジする最高の機会だったはずです。

一つ「責任を果たす」では、例えば、しっかり音を取って声を出す。パートの一員として、自分のパートの他の人の音を聞きながら歌う。練習に真剣に取り組む。責任者、パートリーダー、伴奏者、指揮者、それぞれの係の活動などなど…あったはずです。皆さんは責任を果たせましたか？

二つ「多様性の理解」では、例えば、歌うことが得意な人もいれば、苦手な人もいて、大きな声で歌える人、あまり出せない人もいること。曲をこんな風に表現したいという思いにも違いがあったと思います。皆さんは、自分とは考え方や感じ方の違う色々な人と、一緒に生活をしているということなのです。「自分と違うからダメ」ではなく、その違いをみんなひっくるめて仲間なのです。

そして三つ目、皆でいいものを創ろう、自分たちのクラスしかできない合唱を響かせようとしたら「もっとここをこうしよう」「いやいや、こうした方がよい」と様々な意見が出たり、時には、対立したりしたはずです。でも、対立したままでは先には進なかったですよ。それぞれが歩み寄って「これならできそうだ」という折り合いをつけることで、少しずつ進み始めたと思います。それが「折り合いをつける」「合意形成をする」ということです。

こういった取り組みを通して感じた「協力と団結」を、これからの日常の生活や学習の中でどんどん積み重ねて、第4ステージの「充実と成長」に結び付けていきましょう。「充実と成長」のためには、積み上げの過程で「絶対あきらめないこと」「粘り強く取り組むこと」「難しいと思うことでも挑戦すること」が大切です。

1年生は、今の自分の生き方を見つめて、先輩になる準備を始めなければなりません。2年生は、四中の良さや課題を見つめて3年生から四中の伝統を引き継がなければなりません。3年生は将来を見つめて進路について本気で考えて、切り開かなければなりません。自分自身をしっかり見つめながら、2021年残りの2カ月を充実させましょう。



美術部の地下道アート作品「イヌワシの里」です。酒田警察署から依頼され、毎年制作している壁画です。11月に酒田駅わきの地下道に展示になります。2年生7名が、酒田市のシンボルを題材にアクリル絵の具で細かいところまで丁寧に描きました。